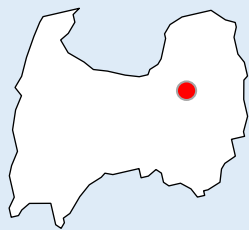


7 上市町薬用生産組合（富山県上市町）

産地の概要



品 目 シャクヤク

栽培面積 114.2 a

栽培戸数 13 戸 （令和6年3月時点）

取組体制 富山県薬用植物指導センター（苗の生産、栽培指導）
上市町（補助金：栽培面積払い・種苗購入）
町内の就労継続支援B型事務所（乾燥根の出荷のサポート）

特 徴 県や町のバックアップによる薬用シャクヤクの生産拡大・特産品化

取組の背景

中山間地域の有望な作物として、上市町ではシャクヤクの生産を奨励し、生産が拡大傾向にあった。平成31年に富山県薬用植物指導センターが改修され、乾燥機などが稼働。

その中で生産者が相互に連携し、栽培技術の向上、作業省力化の実証を図るために令和5年に上市町薬用作物生産組合を設立し、県とも協力し、薬用シャクヤクの生産拡大・特産品化を目指した。



▲上市町薬用作物生産組合設立総会

品目選定理由

富山県では薬用作物の生産拡大を図っており、その中でシャクヤクは中山間地域での新たな産業化や耕作放棄地対策となる品目として注目されていた。中山間地域の多い上市町では、鳥獣害の食害を受けにくい品目であること、同町にある薬用植物指導センターにおいて長く栽培実績がある品目であり、すぐに技術指導が受けられること、景観作物として観光面でも利用できることなどからシャクヤクを選定した。

課 題

- ・除草作業に労力がかかる（特に定植後2年間）
マルチや除草剤などを利用してシャクヤク株の定植穴からの雑草が発生し、苦慮
- ・収穫、出荷用の根の調製、苗の調製に時間がかかる
- ・短期間に作業を行うための作業人員の確保、作業スケジュールの調整が難しい

主な取組内容

①種苗

- ・富山県内の生産者及び富山県薬用植物指導センターで生産された苗を購入

②栽培管理

- ・県を中心に「富山県薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム」を設立し、栽培マニュアルを作成（令和6年）
- ・追肥の省力化を図るため液肥システムの実証を実施

③加工・調製

- ・富山県薬用植物指導センターの洗浄機、乾燥機などを利用予定（乾燥根）

④集出荷

- ・生根出荷の場合は生産者自身で加工・調製作業を行い、乾燥根の出荷の場合は一部を町内の就労継続支援B型事務所へ作業委託予定



▲令和6年5月のほ場の様子
（令和4年定植）

成 果

【取組による定量的な成果】

栽培面積拡大 R4：84.9a → R5：114.2a

上市町の町花にもなり関心は高く、遊休農地への作付が増えた



◀液肥システム
を実証中のほ場

今後の展開

- ・令和8年度(令和4年度作付分)の出荷実績を踏まえ、中山間地域や耕作放棄地の利用を推進する